

資料名	概要
	<p>(ただし、症例 2 では他剤と併用) なお、1966 (S41) 年のミドリ十字による「フィブリノーゲン-ミドリ治験報告集」では、品川報告にて使用されていたフィブリノーゲン製剤は Cutter 社製の「纖維素原 (パレノゲン)」である旨が記載されている。</p> <p>C(comparison, 比較) なし</p> <p>O(outcome, アウトカム) [症例 1] 術中の時の出血傾向なし (フィブリノーゲン濃度は 210mg%に改善) [症例 2] 投与翌日から殆ど完全に止血 (フィブリノーゲン濃度は投与 4 日後時点で 220mg%に改善)</p> <p>副作用の記述 症例 1 については、術後 20 日目の退院時点で「血液学的諸検査に異常は認められなかった」との記載。</p>
<p>3) Fibrinogen使用経験 (岩谷宏ら)²⁸</p>	<p>P(patient, 患者) 産婦人科にて 10 例 子宮胎盤溢血 3 例 子宮頸癌並びに子宮腔部筋腫の手術例 7 例 ※詳細な記述があるのは 2 例のみ</p> <p>E(exposure, 曝露) fibrinogen を投与</p> <p>C(comparison, 比較) なし</p> <p>O(outcome, アウトカム) いずれも出血傾向が減少、出血時間が短縮 (1 症例については、フィブリノーゲン濃度について、「術後第 5 日の測定値は 535mg/dl と正常値よりも高い値を示した」と記載)</p> <p>副作用の記述 記述なし</p>
<p>4) フィブリノーゲンの使用経験 (村上文夫)²⁹</p>	<p>P(patient, 患者) 手術時または術後に出血の起こった下記 7 例 ※フィブリノーゲン濃度の記載なし Banti 氏症候群 1 例 突発性血小板減少性紫斑病 1 例 直腸がん 2 例 胆管閉塞 1 例 血友病 A 1 例 外傷性頭蓋硬膜下血腫 1 例 低フィブリノーゲン血症の予防目的で 17 例 食道がん 2 例</p>

²⁸ 岩谷宏ら「Fibrinogen 使用経験」 1962 (S37) 年頃 (東京甲 A193)

²⁹ 村上文夫「フィブリノーゲンの使用経験」 1962 (S37) 年頃 (東京地裁 甲 A194)